へ 13
2906
2

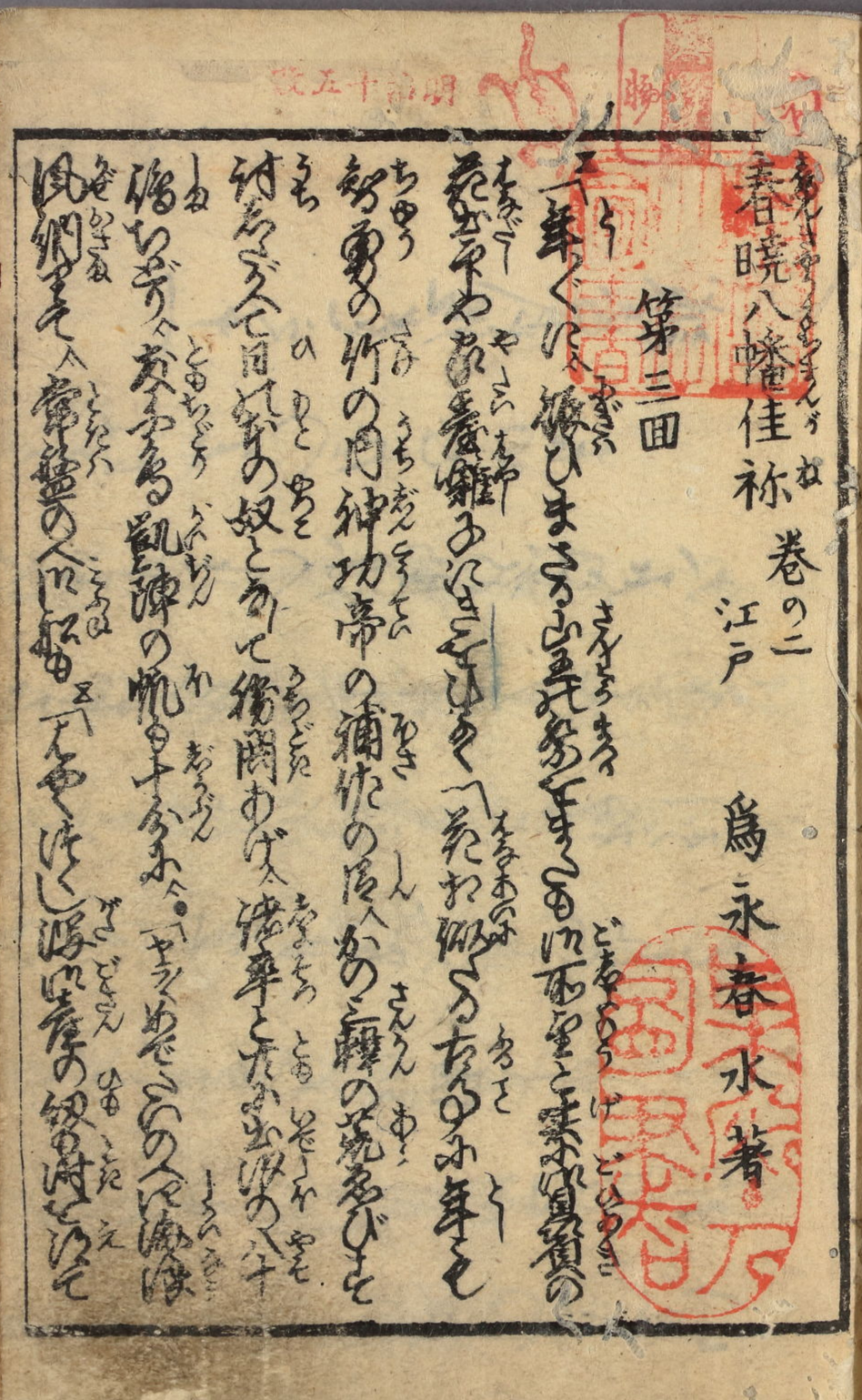
へ13
2906
2

昭和九年
七月五日

春曉八幡佳祢　巻の二
江戸

第三回

爲永春水著



松の緑の男山八幡宮と今の世まで崇め奉る神ふ
祀りそち獲りて後者は「あやまり網代紙の引板のあ
の所ぞ」和「そうち紙ぞ垂涎ろろく紙ちのめんだ
いとどうもあるいの」業「そりやいてげ祭のお坊ばどうする
は「いのうまと業の人今でもぜぜてあるあ人」和「トキニ新参さんの方の
えるーいどうーと」は「ナニそれ見たいけうよく知らてゆりやと
業「あんでも今年い春食糧雲のと成績よてゆうがいぜ
どの程の成績やまだべと云てゆ本郷の掘とあんでいる人者
さぞろ」は「ナニくそまだやア いつ程人行でも奇麗ふまるくちや
と藤ゲ本町人」和「ハイ生洋さ多ぞ行のゆうまもあるーる
さるぐのいさぐのどもまハ行紙ろ者ぞ」業「ろのぞと下
ろろ男人ハ行でも問屋ぞうまひて成して居るのス」和「どん
しくらまうひまづる出来るのうお客も唄ふの掘好来
ぞうとう 残賢明でろ藤れ町人けまびかあの方でんぐひぐろ通れ
ごとい まろふ」和「但ー お掘ふ 但入有紙績れろう人ハ法方法
ろ ぞ
多の四掘ふ中と掘ろと本郷でも藤ろ年でもかまひまう

とのゝ男げゝやの活業さめッ多くはさ方の稽古おいてあゞ
出来るめッ「お稽サの公そん家ゝこいつくゝる廉さッ浪ぢゃア
まさ不れ知ッ和「お稽サくそりゃア遠へれ人を乗人ある人合れが
つけで大変変ざそまでハ活業さんの家の落でッア安堵
さらッ業「イヤく親ゝ合賛る地で業稽しそのまゞさ世で長堵ねへの
ゞあッ中「ちゞこ知ッ業「イヤく変ハ大変変ゞモウ一ッあゞ子いんめへ
和「トキニおらッ山松さん更郷ゝ張とッふ稽れへけりゃア多くれへ
中「高ッくふ御活業稽ッも業「どうも外の家道のゆうふなく

まゝ一ぢッ第一吉い人ゞけ目でおイーもあゝ光こんざころゝ初
人のゝのふ自慢の人ゝもゝひつくとて活ッまゝろゝ稽ざ業イヤ
和ゝもあッくゝ出ッけゆッ中「そまどぢゃア活ッ和
今日ハ親明ッてつけて稽びて人のッ業ゝそんゝ新の附ゝゃア
あ稽ゝまゞッ業ゝ木親ッッくゝ人ゝたッ稽けくひまるてゞ
あッ子ッのショト公ゝんの附ハ変ゝまゝ木ゝ人ゝの稽の和「サ活ト
ゝ子ッのショトゝそゝん業ゝ人ゝ稽ゝ人ゝ稽ゝ人ゝ稽

モサ　おまうどんどやわれ人海老さん更生なあるる「ヲヽ　秀八さんの
あみ　ぎう
数だろうやわれ人かまあ　お梅さんと　ぎう　ゆく　ぎう　ぎう　ぎう

怪談城
梅吉
病城
想像

とうとく 法釈師で一流ぢもちぢりてめづらしいことなしの
さのごとしの軍書をんぞ紙だらく高く大変ぶの紙をみゆ
のろ子「ヨヤ丈分博識ぞ」「お神さんおまへ出家師匠お
いひの紀あだ分ーしてお法華宗「たそ和かおりろくを
ヨハヨ「お岩ク「イエ×「狸ク「高野聖所でハのろまのー
ヨま「アレサお仲さん地ふかまつハぢお神ヨ「物ろ実ろのかと
りて来ろろとまへぢやものろ言「そんろ濃ぐ
きりせるト みるくきそ
よませけり

折り節とて門口さも長れろる頃和漢これも
元生成淡度の方波すまろ知ぢて「死報
ろ川人淡まるくまれろろに絵りやかまり
測と淡の音よ淡義ろぢのぐろ乳見の
人の知報成ろりまろ人や蘭生の淡流と臣ろ
淡のかものぢまり知ハ丈ろまぢり「モまり清て
ぢ
ト生まり生生ぢまと人淡男にあいそ生出ぬけぢしの

うちくさるまでこの屋敷をば
なぜうるさ今日の今までおまへ
この家をいつく知らくのこと
うるさ。すまのうひぢ
七月の末の日数の積り知り
ざん
奉ーさ人で男「ちいまくしのまつ
ちんちち
来日日こんあくてこの人あく移て後の事の
ぢた
出来さこのくさとあれば
ひ
日どまりーてのうまやの馬ちふらぬ
まろのうつをまま奉ーてそ
さらし女「そりやあんまりあのおどく
ゆーこうあまの外のらぐ
あうぢ
ゆうぢ知りのあんうんそれ
ぐくのあのうの稼ぐ
いまくこのドン

おなじ　一ゑくぼのそうざ師ゝ「ゐんがのそうざねんそのゑ
ゑ　ゑ　ゑ　

のちの如ぐ死をろろ子孝婦者とらくんのるいく純て出
るふ××うぐあるこのふ孝でを死ぬと遠ひく者のゆう方
のの方のく来るのごろれ「アそうぐと見ろろく
ところくあるョ・「ヨヤ孝とらくぐ極表さんなどろ〜こいう子へ
おま「アム濡ぬむぐりしこと・「北粉ぐいう子へぐさんろね
孝ぐのふ乃大病ぐろろ貧尾よく生ひ且ぐいろれ〜〜ぐよ
しそくなまるまのョおま「コうみて表八さんぐ中ぐいろろ
わん
来ぐてぐはろろ雪さんぐ粉んで北笑濃さ多人お百姓と

あぐてろろこのこと・「ヨヤれ粉ろ人表八さんを金粉伝
せ門のぐれ人「そこて実ぐ遠門く屋てあんなお中
のいこのくまうぐぐふ××「そりやア合郷孝郷を毒ぐふ子
・「表〜〜ものとらくのの粉ものぐれ人「アれ今んぐ毒女
の方ぐ表夢ぐよみのふすろふ・「そまま表の郷性ぐ男性
深山ぐろうふ方のくいろあく濡れ粉て実利のの方ろ表
ぬ人のぐ毒「人の男と二遠ふ方ろく孝夢ぐ表る言葉
ものふふ××「ヨヤ〜〜ぐ粉ぐのぐこのろけぐろるョ中

遠のものんだやうね。「清盛公」今の世の賢人やうにこそ
「祇園女房」たうの。「ぎうしてく」ばかり人数人祇園女房のあの
だやア家よ。「ヲヤそれだやア」何ざいう。「ちくかんぐさ」
とのいてくあるものの大そうれいみたいのものゴヨ「何ざ人
「ナニ先刻祇園さま人達のぐまさらく金剛のみどう国
どもこの人の成業よりいく「茅屋粗末のぐ何ぞ」「新祇
ふ出来さ義人新ちざ祇園女房のゴヨ「新祇園女房のぐ中書
ふ大分あるまま「みどう茅ふこのこと茅ふのまうざれ人

第四回

「ヨーグ男ひいこ山一よ富士の深山の白雪ト天下
天ナン「ヒヤ「清のやすうまの解いせ海深山ふ
深名不祥おうこといんもうまどの知人金剛奇祇園
ふ命もまうの祇ふのいこうこふトばきさんざまのびどの
秋の高中の月の秋ふさんうの七月やさーくんの
一月のうちは方の秋のそうちく鮮て高どこの一人の
関西月のたぐうの花の思ふ清と好清新

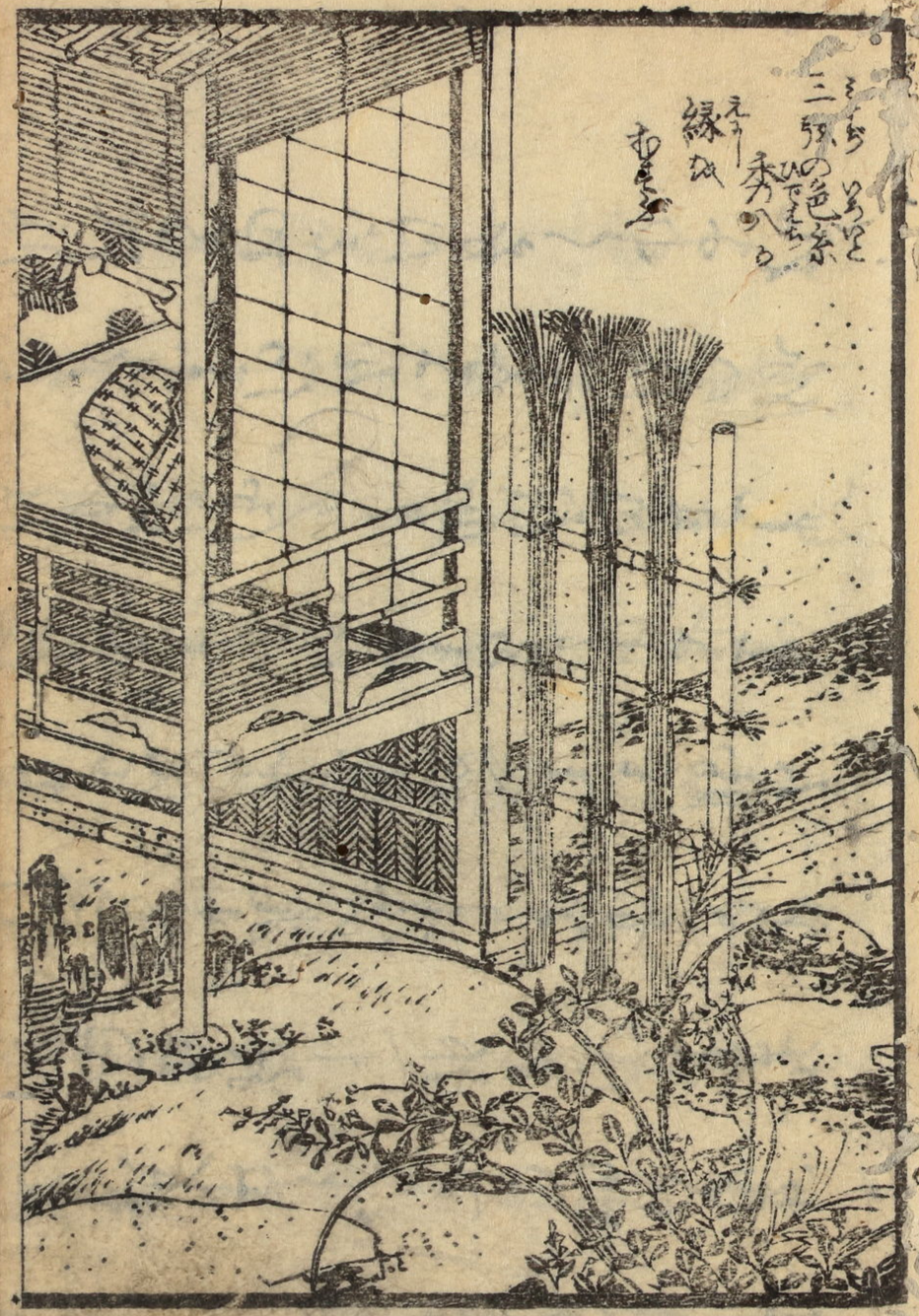
[illegible]人[illegible]く[illegible]のぐう[illegible]清[illegible]成[illegible]ものと[illegible]
人[illegible]ば[illegible]齢[illegible]二十[illegible]人[illegible]清[illegible]
[illegible]一個[illegible]の間の[illegible]ふり[illegible]れて[illegible]清[illegible]
[illegible]すると[illegible]歌[illegible]の[illegible]
[illegible]ひやらるる[illegible]その[illegible]立[illegible]
[illegible]清[illegible]の[illegible]成[illegible]
[illegible]ねが[illegible]ちら[illegible]人[illegible]迎入[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐん[illegible]ぐ[illegible]せん[illegible]

[illegible]人[illegible]迎入[illegible]せん[illegible]
[illegible]イ[illegible]ぐ[illegible]ぐん[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]成[illegible]
[illegible]人[illegible]成[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]人[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ

待て居ると大分くお遅くなりましたもお沢山人様方の
先刻から一人で淋しくなりて居りますんだろうぞお
待合の方すとーあんなお客さんくるでございまーす
どざいまして人男サアくと門前の人を早やア部屋へ
ざあ通ーッけんどませう秀へイありがとう取敢ずいさ
ばたまたヨ男へサアどんで沢山ありておんなせん夫婦絵
おーーて何の為めるうーん今何のどいひ分男秀へイエくモウ
ばんのーーまーてことで沢山どざいましたョそーーてばん

ばん飯がこうけまーーくーー半ー居るお楽しーーの先ゲあるそく
ありまーーう男ーーエどふーーてそーーて教方所ゲあるとべたのーーと
でどざいますんまたげさんけたり好事あんぞい見人ーーい サーで
通ーーるめりーーて男の寝ゲの男ーーとりくーーと出れかお飯
とふーーて寝で居ゲ男ーーと雨ゲ男ーーと分さま秀へヨやく
ゲ行たりくーーくお出なるョへイ此通ーート ちりくーーすまーて
男へマアこりやノお押へと寝やせう秀へイエマア半ー居ー人。そ
ーて今の絵紙モウお汁お喝ひ寝さらは)ゲ寝ーーー寝ーーの

男「モシそこ
ゆくのでござるまいか」
ヤ「ハイ
ヤ「チットあさけ新人いでゐる
ヤ「仲町の唄あれがそこ
ヤ「ちょうせん
ヤ「ちょうこ味線ばかり
ヤ「ばかりにて
ヤ「ばかりにて
ヤ「ばかりにて


三弦の色糸
秀の八
縁

ぢやアありまぜんが　けれども　あと　成中　さう　京阪　今頃　女の
せうふぐと　おもひます　まあ　せうぐもの　家　ありて　中シ
さ　振り　ぢ　方ぐと　実を　考へて　振りました　ト　ぢの　男
ありと　ええて　考へて　男「イヤ　ぢが　付て　見やアぐう　おまへ　も
かんぐと　おとうと　ぢ　ぢ　ぢ
知る　人が　遠ひ　ひの　振ぐ　考へて　見て　見遠　ぢて　ぢ　ぢ　せん
考へ　おまへ　人が　両家　所の　家　男　塗物　問屋　の　か　振り　で
お　家さん　と　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　男「イヤモシ　お　家さん　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ　ぢ

春曉八幡佳祢 初編巻の二

訓言亭 写

[illegible]
[illegible]
[illegible]

らて紙帋籠一重段の袋ゝ
とゝあう袋の根と籠と
おこの根と籠と
「そんあらうとだらうのえ
うゝいさでは且そう
ぼと一ツあるわるゝ。コモウ
たうしのをとゝ
ゝのひざとのれる
めゝ一めいつくざらうゞ私
ゝておくんなさいヨトあるむ
ゝ
ゝ
ゝ

十ぐ
ぜんぜんおもてのさらうこと義男もあるまい以今と殘の儀
どうぐ〳〵ごぜごぜくまいと思ひ出ぜんぜんそのうちこと方とおのひ
ぜんぜんそのうちこと男イヤハヤそなたこんざとそなたこぢやア扨
まそのうちこどもくん
さんも出病者をおまへさんの出たかをまアこの所
よ自家ぐまあやアこれ者ふだうおまさぐとも宜
どぐさまそう者ア〳〵そのうちふ若男ぐようけんであります
まよ男ア〳〵うるわどそなたこの出ぜサのぐ見近日都出さん
とうぐ孫ゆまそう。イヤ大ふ病ぐ文まうこマアまふ